



Adaptec RAID Controller Command Line Utility ユーザーズガイド

著作権

Copyright 2011, PMC-Sierra Inc. All rights reserved.

この文書中の情報は、PMC-Sierra, Inc. の占有および秘密情報であり、お客様の内部使用に限定されます。本文書はたとえ一部であっても、PMC-Sierra, Inc. の文書による許可を得た場合を除き、どのような場合でも複製、転送をしてはいけません。

商標

PMC、PMC-Sierra、Adaptec は、PMC-Sierra, Inc の登録商標です。「Adaptec by PMC」は、PMC-Sierra, Inc の商標です。本文中のその他の製品や会社名は、それぞれの所有者の商標の場合があります。PMC-Sierra の商標のリストは、www.pmc-sierra.com/legal を参照して下さい。

免責条項

None of the information contained in this document constitutes an express or implied warranty by PMC-Sierra, Inc. as to the sufficiency, fitness or suitability for a particular purpose of any such information or the fitness, or suitability for a particular purpose, merchantability, performance, compatibility with other parts or systems, of any of the products of PMC-Sierra, Inc., or any portion thereof, referred to in this document. PMC-Sierra, Inc. expressly disclaims all representations and warranties of any kind regarding the contents or use of the information, including, but not limited to, express and implied warranties of accuracy, completeness, merchantability, fitness for a particular use, or non-infringement. In no event will PMC-Sierra, Inc. be liable for any direct, indirect, special, incidental or consequential damages, including, but not limited to, lost profits, lost business or lost data resulting from any use of or reliance upon the information, whether or not PMC-Sierra, Inc. has been advised of the possibility of such damage.

特許

本書で説明する技術には、特許により保護されているものが含まれる可能性があります。

Adaptec by PMC 製品サポート

お使いのアダプテック製品のインストールまたは使用に関する質問がある場合には、まず、この説明書をご覧ください。殆どの質問に関する答えを探することができます。これ以上の情報が必要な場合は、以下のオプションをご利用下さい。迅速なサポートの為にコンピュータの前でご連絡下さい。

TSID(テクニカルサポート ID) ナンバー

- テクニカルサポートにお電話する際には、固有の TSID 番号またはシリアル番号が必要になります。TSID 番号により、お使いの製品やサポート状況について特定することができます。
- TSID 番号は、下記のようなバーコードのラベルで、パッケージに 2 枚ついてきます。



- 製品サポートにご連絡頂く際、TSID が簡単にわかる様に製品を登録することをお勧めいたします。

メモ: 電話番号は変更される場合があります。最新の連絡先は、www.adaptec.co.jp のサポートをご参照下さい。

日本のサポートオプション

- ウェブサイト、www.adaptec.co.jp を参照下さい。
- 製品に関する記事、トラブルシューティングのヒントや、よくある質問 (FAQ) は、Adaptec Support Knowledgebase(ASK) <http://ask.adaptec.co.jp> で検索ください。
- テクニカルサポートスタッフとお話になる際には、サポートセンターにお電話下さい。
電話テクニカルサポート : 0066-3313-2601
(受付時間 平日午前 9 時 -12 時、午後 1 時 -6 時 土、日、祭、祝日を除く)
- ask.adaptec.co.jp からメールで質問することもできます。

ソフトウェア使用許諾契約書

よくお読みください。本ソフトウェアを使用することにより、お客様は、PMC-SIERRA, INC.、及び本製品にバンドルされているソフトウェアの使用許諾者が定める契約条件に同意したものとします。

お客様は、本製品に付属のソフトウェアを使用することにより、インストール中に同意した、当該ソフトウェアのライセンス許可者が定める契約条件の適用を受けることとなります。お客様が、当該ソフトウェアに適用される契約条件に同意しない場合、未使用の製品を返送することで、全代金の返金を受けることができます。

お客様は、PMC-Sierra が提供する本ソフトウェア（以下「ソフトウェア」という）及び関連書類の使用許諾を得るために、以下の条件に同意するものとします。

1. 使用許諾：本契約書は、下記の使用許諾をお客様に与えるものとします：
 - a. 単一コンピュータシステムでの本ソフトウェアの使用、または、
 - b. PMC-Sierra の著作権表示と所有財産権に関する記述を複製することを条件として、バックアップを唯一の目的とした「ソフトウェア」の機械読み取り可能な形式でコピーを1つ作成すること。「ソフトウェア」は、主たる使用者の、家庭、ラップトップ、その他2次的なコンピュータで使用される場合がありますが、そのような場合にはその機能を使うためにさらに「ソフトウェア」のコピーを作成することができます。この許諾書で用いられているように、「ソフトウェア」は、RAM に読み込まれたり、ハードディスクやその他の半永久的な記憶機器にインストールされて使用されます。「ソフトウェア」は、いずれの場合でも一台でしか「使用」できません。（ネットワークまたは複数のユーザアプリケーションには、別のライセンス条件と料金が適用されます。）このライセンスの特定の条件として、お客様は、「ソフトウェア」の使用にあたっては、著作権法を含む全ての法を遵守し、コンテンツの所有者から必要な使用許諾や、許可なしに、「ソフトウェア」をコピー、転送、実行または配布しないことに同意します。
2. 規制：「ソフトウェア」のコピーを、他人にまたは電子的に1台のコンピュータから別のネットワークに転送してはいけません。いかなる形式においてもインターネット上に「ソフトウェア」、またはその一部を掲載したり、インターネット上で使用できるようにしてはなりません。タイムシェアリングアプリケーションなど、コンピュータサービス関連のビジネスで、「ソフトウェア」を使用してはならないものとします。「ソフトウェア」は営業秘密を含み、同秘密を保護するために、「ソフトウェア」を逆コンパイル、解析、逆アセンブル、その他人間が認知できるような状態に変更してはなりません。さらに、「ソフトウェア」やその部品から派生した製品を、修正、改造、翻訳、賃貸、リース、ローン、利益のための再販売、分配、ネットワーク、あるいは創造してはならないものとします。
3. 「ソフトウェア」の所有権：お客様は「ソフトウェア」が記録あるいは固定された媒体を所有しますが、オリジナルの媒体に記録された「ソフトウェア」、並びにその後作られた「ソフトウェア」のコピーに対する権利と所有権は、オリジナルやコピーのフォームや媒体に拘らず、PMC-Sierra またはその使用許諾者が保持します。本許諾契約書は「ソフトウェア」及びそのコピーの販売契約ではありません。
4. 機密保持：お客様は、「ソフトウェア」の機密性を保持し、PMC-Sierra の事前の文書による承認なしに、「ソフトウェア」を第三者に公開しないことに同意します。更に、使用許諾を得ていない第三者の「ソフトウェア」に対するアクセスを阻止するために、あらゆる適切な手段を講じることに同意します。
5. 期間：本許諾は、それ以前に終結、解約されない限り、2045年1月1日まで有効です。お客様は「ソフトウェア」（関連文書を含む）及び全コピーまたは変更内容を破棄することにより、いつでも本契約書を終結させることができます。PMC-Sierra は、お客様が本契約書の条件や条項を遵守しない場合、直ちに使用許諾を解約する権利を有します。お客様による終結も含めて、本契約書が終結された場合、お客様は「ソフトウェア」（関連文書を含む）及び全コピーまたは変更内容を破棄しなければなりません。
6. データベースに関する特記事項：「ソフトウェア」にデータベースが含まれる場合、「ソフトウェア」を使用してディスクを作成するときのみ当該データベースの使用を許諾されることに同意します。第4項の規定に従い、データベース及びデータベース内の全データの機密を保持することに同意します。本契約書は、当該データベース及びデータを配布または開示する権利を与えるものではありません。
7. 限定保証：PMC-Sierra および使用許可者は、被許可者への配送日から30日間、「ソフトウェア」が備え付けられた媒体が、正常な使用及び作動条件において材質または製作上の欠陥を生じない事に限って保証する。PMC-Sierra および使用許諾者は、「ソフトウェア」やその関連文書を使用した成果や結果を保証しません。上述のみが、PMC-Sierra および使用許可者の負う全責任と、本保証の違反に対してお客様のみが受けることができる救済措置となります。上述の限定保証以外に、PMC-Sierra および使用許諾者は第三者の権利や市場適性、あるいは特定目的への適性などに関して、明示的にも黙示的にも、いかなる保証も行なうものではありません。ある特定の管轄地においては、黙示的保証の存続期間についての限定を許容しない場合があります。そのような場合には、上記の限定あるいは保証の排除はお客様に適用されない場合があります。本保証書は、本製品をご購入いただいたお客様に特定の法的権利を認めるものです。

8. PMC-Sierra および使用許諾者の負う全責任と、本保証の違反に対してお客様のみが受けることのできる救済措置は次の通りです。
 - a. 上記の限定保証条件に合わず、PMC-Sierra に返送された媒体の交換、あるいは
 - b. PMC-Sierra またはその販売代理店が、材質または製作上の欠陥のない新たな媒体を供給できない場合、お客様は「ソフトウェア」を返送することにより本契約を終了し、代金の返金を受けることができます。
9. 損害責任の制限：PMC-Sierra は、たとえ第三者が PMC-Sierra に損害の可能性や苦情を勧告していたとしても、お客様が被った逸失利益、金銭的損害、あるいは他の特別損害、付随的損害、間接損害、派生的損害、結果的損害に対していかなる責任を負うものではありません。ある特定の管轄地においては、上記の限定責任および付随的あるいは結果的損害の排除を許容しない場合があります。そのような場合には、上記の限定あるいは保証の排除はお客様に適用されない場合があります。
10. 輸出：アメリカ合衆国並びにそれ以外の国家の法律及び規制により、「ソフトウェア」の輸出及び再輸出が規制されていることを、お客様は認識しなければなりません。お客様は、アメリカ合衆国並びにそれ以外の国の法律に違反する方法で、「ソフトウェア」あるいは関連書類を輸出または再輸出しないことに同意します。
11. アメリカ合衆国政府による規制：「ソフトウェア」は、次の規制事項に従います。本ソフトウェアが GSA 契約による条件により取得された場合、その使用、複製、公開は、該当する ADP スケジュール契約により制限されます。「ソフトウェア」が同国防総省または民間機関が定める契約条件に従って取得された場合、その使用、複製、または公開に際して、連邦調達規則の 48 C.F.R.12.212 及び国防総省 FAR 追加条項 49 C.F.R.227.7202-1 の条項に則って定められた本契約の条件に従うこととします。
12. 総則：お客様は、本契約書を熟読し、理解したこと、更に「ソフトウェア」を使用することにより、本書の条件と条項が被許可者を拘束することに同意することを承諾します。更に、お客様は、本契約書が PMC-Sierra とお客様の間の完全かつ唯一の同意文書であり、本契約書の主題に関してこれまでに PMC-Sierra とお客様の間で交わされた提案や同意書（口頭か文書かを問わず）並びに他の方法による情報交換に取って替わるものであることに同意します。追加または修正された本契約書の条項や他の条件は、PMC-Sierra の役員がその承諾書（本契約書条件の放棄を含む）に署名しない限り、PMC-Sierra に対して執行不能とします。お客様は、法律に準拠し、責任を持って本ソフトウェアを使用する責務をすべて負うものとします。本契約書は米国カリフォルニア州の法律が適用されるものとします。ただし、著作権関係については連邦法が適用されるものとします。本契約書は、カリフォルニア州サンニール市において、両当事者によって締結されたとみなされます。本契約書のいずれかの条項が、ある裁判管轄地において履行不可とされた場合、同条項は本契約書より分離するとみなされ、本書の他の条項には何の影響も及ばないものとします。本契約書において特に記載されていない「ソフトウェア」に対する権利は全て PMC-Sierra が保有します。

本使用許諾書にご質問があれば、下記にご連絡下さい。

PMC-Sierra, Inc.
Legal Department
1380 Bordeaux Drive
Sunnyvale, CA 94089
(408) 239-8000

目次

コマンドラインユーティリティのスタートアップ

コマンドラインユーティリティのインストール	9
Windows へのインストール	9
Red Hat、SUSE、Fedora Linux へのインストール	9
Debian または Ubuntu Linux へのインストール	10
Sun Solaris へのインストール	10
FreeBSD へのインストール	10
VMware へのインストール	11
リモート ARCCONF のインストール	11
Adaptec CIM Provider のインストール	12
Windows ゲスト OS にリモート ARCCONF をインストール	13
Linux ゲスト OS にリモート ARCCONF をインストール	14
Linux ゲスト OS で電子メール通知を管理	16
コマンドラインユーティリティの起動	16

コマンドラインユーティリティの使用

ARCCONF コマンド	18
arconf atpassword	18
arconf copyback	18
arconf create	19
arconf datascrub	21
arconf delete	21
arconf driverupdate	22
arconf failover	22
arconf getconfig	22
arconf getlogs	23
arconf getsmartstats	24
arconf getstatus	24
arconf getversion	25

arconf identify.....	25
arconf imageupdate	25
arconf key.....	26
arconf modify.....	26
arconf playconfig	27
arconf rescan.....	28
arconf resetstatisticscounters	28
arconf romupdate.....	29
arconf saveconfig.....	29
arconf savesupportarchive	30
arconf setalarm	30
arconf setcache.....	31
arconf setconfig.....	31
arconf setmaxcache.....	32
arconf setname.....	33
arconf setncq.....	34
arconf setperform	34
arconf setpower.....	34
arconf setpriority	35
arconf setstate	36
arconf setstatsdatacollection	37
arconf setvmcredential	37
arconf task.....	37

コマンドラインユーティリティのスタートアップ

1

この章には ...

コマンドラインユーティリティのインストール	9
リモート ARCCONF のインストール	11
コマンドラインユーティリティの起動	16

この章では、お使いの Adaptec® by PMC™ RAID コントローラが、どのように ARCCONF コマンドラインユーティリティの使用をサポートしているかを説明します。

このユーティリティを使用して、以下のことが可能です。

- 論理ドライブを作成および削除
- 構成の設定の表示及び変更
- コンピュータの設定を別のコンピュータにコピー
- 故障した物理デバイスの復旧と、影響のあった論理ドライブの再構築
- コントローラに新しい BIOS とファームウェアをフラッシュ
- コントローラがディスクドライブの削除と接続をチェックできるようにする
- Windows のドライバを自動的にアップデート
- ステータスとコントローラのイベントログへのアクセスを提供
- 障害を分離し、原因を確定する

コマンドラインユーティリティのインストール

ARCCONF は、Adaptec インストール DVD で提供されるコマンドラインユーティリティです。ユーティリティは自動的に Adaptec Storage Manager と同じディレクトリにインストールされ、そこにある必要があります。

メモ: VMware ESX 4.x システムにコマンドラインユーティリティをインストールするには、この項の [11 ページの VMware へのインストール](#) に従います。VMware ESXi システムにコマンドラインユーティリティをインストールするには、Adaptec CIM Provider とリモート ARCCONF を代わりにインストールし、[11 ページのリモート ARCCONF のインストール](#) の説明に従います。

Windows へのインストール

ARCCONF を Windows システムにインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 コンピュータを起動します。
- 2 Windows が起動したら、Adaptec インストール DVD を挿入します。
インストール DVD のメインメニューが開きます。
- 3 **Install Adaptec Storage Manager** を選択します。
インストールウィザードが開きます。(もし開かなかつた場合、**Browse the CD/DVD** を選択し、**Autorun** をクリックします。)
- 4 画面上の指示に従ってインストールを行います。

Red Hat、SUSE、Fedora Linux へのインストール

Red Hat、SUSE、Fedora Linux に ARCCONF をインストールするには、下記の手順に従います。

- 1 コンピュータを起動します。
- 2 Linux が起動したら、Adaptec インストール DVD を挿入します。
- 3 Adaptec インストール DVD をマウントします。
Red Hat: `mount /dev/cdrom /mnt/cdrom`
SuSE: `mount /dev/cdrom /media/cdrom`
Fedora: `mount /dev/hdc /mnt/cdrom`
- 4 Linux manager ディレクトリに変更します。
Red Hat/Fedora: `cd /mnt/cdrom/ASMCD/linux/manager`
SuSE: `cd /media/cdrom/ASMCD/linux/manager`
- 5 RPM パッケージを抽出して、インストールします。
`rpm --install ./StorMan*.rpm`
- 6 RAID Controller インストール DVD をアンマウントします。
Red Hat/Fedora: `umount /mnt/cdrom`
SUSE: `umount /media/cdrom`

Debian または Ubuntu Linux へのインストール

ARCCONF を Debian または Ubuntu Linux にインストールするには、下記の手順に従います。

- 1 Adaptec インストール DVD を挿入します。
- 2 Adaptec インストール DVD をマウントします。

```
mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```
- 3 Debian manager ディレクトリに変更します。

```
cd /mnt/cdrom/ASMCD/debian_x86_64/manager
```
- 4 .deb パッケージをインストールします。

```
dpkg -i storman_6.50-15653_amd64.deb (64 ビットシステムの場合)
```
- 5 Adaptec インストール DVD をアンマウントします。

```
umount /mnt/cdrom
```

Sun Solaris へのインストール

ARCCONF を Solaris システムにインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 Adaptec インストール DVD を挿入します。

DVD は自動的にマウントされます。(されない場合は、以下のようなコマンドを使用して、マニュアルで DVD をマウントします。詳細については、オペレーティングシステムの説明書を参照してください。)

```
mount -F hsfs -o ro/dev/dsk/c1t0d0s2/mnt
```
- 2 Adaptec Storage Manager をインストールします。

```
pkgadd -d/<mount point>/ASMCD/solaris_x86/manager/StorMan.pkg
```
- 3 画面上の指示に従ってインストールを行います。
- 4 Adaptec RAID Controller インストール DVD をイジェクトまたはアンマウントします。詳細については、オペレーティングシステムの説明書を参照してください。

FreeBSD へのインストール

ARCCONF を FreeBSD システムにインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 Adaptec インストール DVD を挿入します。
- 2 Adaptec インストール DVD をマウントします。

```
mount /cdrom /mnt
```

メモ: DVD-ROM ドライブは、異なるデバイス名やパスの場合があります。
- 3 Adaptec Storage Manager をインストールします。

FreeBSD x86 (32 ビット用) では、

```
pkg_add /<mount point>/ASMCD/freebsd7/manager/StorMan-x86.pkg.tbz
```

FreeBSD for amd64 (64 ビット用) では、

```
pkg_add /<mount point>/ASMCD/freebsd7_x86_64/manager/StorMan-amd64.pkg.tbz
```

ここで、mount point は、DVD-ROM のマウントポイントを示します。

メモ: ディストリビューションにも、FreeBSD 8 のパッケージが含まれます。

- 4 画面上の指示に従ってインストールを行います。
- 5 Adaptec インストール DVD をアンマウントします。詳細については、オペレーティングシステムの説明書を参照してください。

VMware へのインストール

メモ: 以下の手順に従い、ARCCONF を VMware ESX 4.x システムにインストールします。VMware ESXi システムのコマンドラインサポートについては、代わりにリモート ARCCONF をインストールします。11 ページの [リモート ARCCONF のインストール](#) 参照。

ARCCONF を VMware ESX 4.x システムにインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 Adaptec インストール DVD を挿入します。
- 2 Adaptec インストール DVD をマウントします。

```
mount -r /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

- 3 ESX manager ディレクトリに変更します。

```
cd /mnt/cdrom/ASMCD/esx/manager (32 ビットの場合)
```

```
cd /mnt/cdrom/ASMCD/esx_x64/manager (64 ビットの場合)
```

- 4 Adaptec Storage Manager RPM パッケージを抽出して、インストールします。

```
rpm --install ./StorMan*.rpm (32- ビットの場合)
```

```
rpm --install -nodeps ./StorMan*.rpm (64- ビットの場合)
```

メモ: "Application can be started by typing /usr/StorMan/StorMan.sh" というメッセージは無視します。VMware は Adaptec Storage Manager GUI はサポートしません。

- 5 /usr/StorMan ディレクトリを変更し、このコマンドを入力します。

```
chmod +x arccconf
```

リモート ARCCONF のインストール

以下の手順に従い、VMware ESXi 5.0 システムや VMware ESXi 4.x システムに Adaptec CIM Provider とリモート ARCCONF をインストールします。リモート ARCCONF は、Windows と Linux のゲスト OS で、VMware システムでのネイティブコマンドラインサポートを可能にします。オプションとして、Linux ゲスト OS にリモート ARCCONF をインストールするときに電子メール通知を有効にすることができます。電子メール通知は、お使いのストレージスペースの論理ドライブの作成や、ディスクドライブの故障のようなアクティビティを監視するのに役立ちます。

メモ: 以下は、VMware RAID コントローラドライバを既にインストール済みであると仮定した手順です。VMware ドライバのインストールまたはアップデートの方法については、[Adaptec RAID コントローラインストール及びユーザーズガイド](#)を参照してください。

Adaptec CIM Provider のインストール

メモ: CIM Provider VIB ファイルを VMware ESX サーバにコピーするには (以下の **ステップ 2**)、WinSCP、putty、Linux scp などのリモートコピーユーティリティへのアクセスが必要です。

VMware ESXi システムに Adaptec CIM Provider をインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 VMware ESXi コンソールで、F2 を押してルートパスワードに入り、SSH を有効にして、ESXi シェル を起動します。
- 2 リモートコピーユーティリティを使用するには、Adaptec インストール DVD からご使用のオペレーティングシステムのバージョンの CIM Provider VIB ファイルを ESXi サーバ上のローカルディレクトリにコピーします。この例では Linux scp を使用してドライブを /tmp/arcconf-cim のディレクトリにコピーしています。

VMware ESXi 4.0 では、

```
scp /mnt/cdrom/ASMCD/esxi4_0/cim/vmware-esx-provider-adaptec-18815.vib
root@<esxi-server-ip>:/tmp/arcconf-cim
```

VMware ESXi 4.1 では、

```
scp /mnt/cdrom/ASMCD/esxi4_1/cim/arcconf-18815.zip root@<esxi-server-ip>:/
tmp/arcconf-cim
```

VMware ESXi 5.0 では、

```
scp /mnt/cdrom/ASMCD/esxi5_0/cim/vmware-esx-provider-arcconf.vib root@<esxi-
server-ip>:/tmp/arcconf-cim
```

- 3 VMware ESXi コンソールで、ALT-F1 を押し、ルートとしてログインします。
- 4 バンドルをインストールするには、以下の手順に従います。

VMware ESXi 4.0 では、

```
esxupdate -b /tmp/arcconf-cim/vmware-esx-provider-adaptec-18815.vib --nodeps
--nosigcheck --maintenancemode update
```

VMware ESXi 4.1 では、

```
esxupdate --bundle=/tmp/arcconf-cim/arcconf-18781.zip --nodeps --nosigcheck -
-maintenancemode update
```

VMware ESXi 5.0 では、

```
esxcli software vib install --maintenance-mode --no-sig-check -v /tmp/arcconf-
cim/vmware-esx-provider-arcconf.vib。
```

- 5 CIM Provider がインストールされたかを確認します。

VMware ESXi 4.x では、

```
esxupdate query
```

パッケージが問題なくインストールされると、以下のような行が表示されます。

```
VMW_ARC_CLI_1.0-ESX-4.1.0-1.0 2011-03-21T18:06:36 ARC CLI provider: ESX
release
```

VMware ESXi 5.0 では、

```
esxcli software vib list | grep arcconf
```

パッケージが問題なくインストールされると、以下のような行が表示されます。

```
arccnf 1.00-1 Adaptec unknown 2011-08-26
```

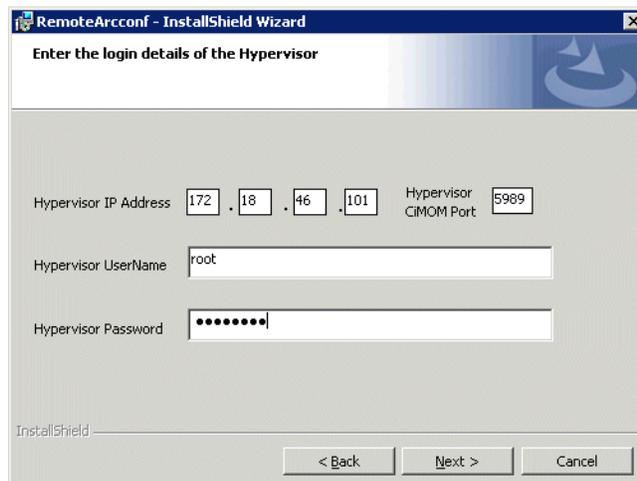
- 6 13 ページの *Windows* ゲスト OS にリモート ARCCONF をインストール または 14 ページの *Linux* ゲスト OS にリモート ARCCONF をインストール のインストール手順に進みます。

Windows ゲスト OS にリモート ARCCONF をインストール

メモ: 下記は、VMware 上にバーチャルマシンを作成済みで、Windows ゲスト OS をインストール済みだと仮定した手順です。Windows でリモート ARCCONF を実行するには、Administrator としてログインする必要があります。

Windows ゲスト OS にリモート ARCCONF をインストールには、以下の手順に従います。

- 1 Windows マシンで、Adaptec インストール DVD を挿入します。
- 2 Remote Desktop Connection ユーティリティを起動し、VMware 上の Windows ゲスト OS に接続します。(接続時に認証を求められます。)
- 3 インストール DVD 上 ASMCD\remote_arccnf\windows ディレクトリに移動し、セットアッププログラムの setup_remote_arccnf_x32.exe を Windows ゲスト OS 上のローカルディレクトリにコピーします。ASMCD/remote_arccnf/windows ディレクトリに移動します。
- 4 setup_remote_arccnf_x32.exe をダブルクリックします。
インストールウィザードが開きます。
- 5 Next をクリックしてインストールを開始し、I accept the terms... をクリックし、それから Next をクリックします。
- 6 初期値のインストール場所を受け入れるには、Next をクリックします。別の場所を選択するには、Change をクリック、場所を選んで、Next をクリックします。
ハイパーバイザ認証 ウィンドウが開きます。
- 7 ハイパーバイザログイン認証、つまり IP アドレス、ポート、ユーザ名、パスワードを入力して、Next をクリックします。



メモ: CIMOM ポートには、ほとんどのインストールで初期値 (5989) を推奨します。

- 8 Install、Finish をクリックします。
- 9 インストールを確認するには、Windows ゲスト OS で管理者としてコマンドプロンプトを開き、以下をタイプします。

```
arcconf help
```

インストールが問題なければ、コマンドのリストが表示されます。

メモ: インストール中にハイパーバイザ認証を誤って入力した場合、「unable to get credentials for ESX CIMOM」というメッセージが表示されます。認証をリセットするには、ARCCONF SETVMCREDENTIAL コマンドを使用します。詳細は、[37 ページ](#) 参照。

Linux ゲスト OS にリモート ARCCONF をインストール

以下の手順に従い、リモート ARCCONF を Linux ゲスト OS にインストールし、電子メール通知を有効にします。電子メール通知は、お使いのストレージスペースに論理ドライブの作成やディスクドライブの故障などのイベントが発生した場合に、選択した電子メールアドレスにメッセージを送ります。

Linux ゲスト OS にリモート ARCCONF をインストールした後、configUtil.sh ユーティリティを使用して、お使いのシステムで電子メール受信者や SMTP サーバの変更など、電子メール通知を管理することが可能です。詳細は [16 ページの Linux ゲスト OS で電子メール通知を管理](#) を参照してください。

メモ: 下記は、VMware 上にバーチャルマシンを作成済みで、Linux ゲスト OS をインストール済みだと仮定した手順です。リモート ARCCONF をインストールするには、Linux ゲスト OS で root の権限が必要です。

メモ: インストーラをインストール DVD から、Linux ゲスト OS にコピーするには (以下の [ステップ 2](#))、WinSCP、putty、Linux scp などのリモートコピーユーティリティへのアクセスが必要です。

Linux ゲスト OS にリモート ARCCONF をインストールには、以下の手順に従います。

- 1 Windows または Linux マシンで、Adaptec インストール DVD を挿入し、マウントします。

```
mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

- 2 ASMCDD/remote_arccconf/linux ディレクトリに移動し、リモートコピーユーティリティ (WinSCP や Linux xsp など) を使用して、32 ビットまたは 64 ビットインストーラを Linux ゲスト OS 上のローカルディレクトリにコピーします。インストーラは、下記です。

```
remote-arccconf-7.20-18825.i386.bin (32 ビット)
```

```
remote-arccconf-7.20-18825.x86_64.bin (64 ビット)
```

- 3 インストーラに実行権限を与えます。

```
chmod +x remote-arccconf-7.20-18825.i386.bin (32 ビット)
```

```
chmod +x remote-arccconf-7.20-18825.x86_64.bin(64 ビット)
```

- 4 インストーラプログラムを実行します。

```
./remote-arccconf-7.20-18825.i386.bin (32 ビット)
```

```
./remote-arccconf-7.20-18825.x86_64.bin (64 ビット)
```

- 5 ライセンス条件を受け入れるには、Enter キーを押します。

- 6 再度 **Enter** を押して **Option 2: CLI and Email Notification** コンポーネントを選択します。

メモ: CLI コンポーネントのみをインストールするには、**Option 1** を選択します。

- 7 ハイパーバイザログイン認証 (または初期値の認証を使用します) を、プロンプトに一つずつ入力し、それぞれのプロンプトの後で **Enter** を押します。

```
Enter Hypervisor IP address      [default:127.0.0.1]:172.18.46.101
Enter Hypervisor User name      [default:root]:
Enter Hypervisor Password       [default:root]:passwd
Enter Hypervisor CIMOM port [default:5989]:
```

メモ: CIMOM ポートには、ほとんどのインストールで初期値 (5989) を推奨します。

- 8 電子メール通知の設定情報を、一度に一つのプロンプトに入力し、それぞれのプロンプトで **Enter** を押します。

```
Enter CIM Listener Port [default: 49152]:
Enter SMTP Server Address [default: 0.0.0.0]: 172.18.45.100
Enter SMTP Server Port [default: 25]:
Enter From Email Address [default: blank]: client@pmc-sierra.com
Do you want to use Secure Mail Server? (yes/no) [default: yes]:
Enter Username [default: root]:
Enter Password [default: root]:
```

インストーラが **Linux** ゲスト OS にソフトウェアのロードを開始します。一連のメッセージを表示した後、電子メールの受信者と通知タイプを要求します。

- 9 受信者の情報を、一度に一つのプロンプトに入力し、それぞれのプロンプトで **Enter** を押します。

```
Do you want to add Recipients? (yes/no)[default: no]: yes
Enter Recipient e-mail address: client@pmc-sierra.com
Enter Notification Type (I/W/E) [default: E]: I
Do you want to add Recipients? (yes/no)[default: no]:
```

メモ: 通知タイプは、**1=** エラー、警告、情報、**W=** エラー、ワーニング、**E=** エラーです。

- 10 「Installation Completed Suscessfully」というメッセージが表示されたら、システムを再起動します。

- 11 インストールを確認するには、**Luinux** ゲスト OS で、ターミナルウィンドウをルートとして開き、以下をタイプします。

```
arcconf help
```

インストールが問題なければ、コマンドのリストが表示されます。

メモ: インストール中にハイパーバイザ認証を誤って入力した場合、「unable to get credentials for ESX CIMOM」というメッセージが表示されます。認証をリセットするには、**ARCCONF SETVMCREDENTIAL** コマンドを使用します。詳細は、**37 ページ** 参照。

- 12 **16 ページ**の **Linux** ゲスト OS で電子メール通知を管理に進みます。

Linux ゲスト OS で電子メール通知を管理

Linux ゲスト OS にリモート ARCCONF をインストールした後、configUtil.sh ユーティリティを使用して、お使いのシステムで電子メール受信者や STMP サーバの設定など、電子メール通知を管理することが可能です。

Linux ゲスト OS 上で電子メール通知を管理するには、以下の手順に従います。

- 1 /usr/RemoteArccconf ディレクトリに変更し、このコマンドを入力します。

```
chmod +x configUtil.sh
```

- 2 Run configUtil.sh:

```
./configUtil.sh
```

- 3 メニューから以下のオプションのいずれかを選択します。

```
-----
1) Get SMTP Server Details          2) Set SMTP Server Details
3) Get Event Listener Port         4) Set Event Listener Port
5) Get Recipient Information       6) Set Recipient Information
7) Update Recipient Information    8) Delete Recipient Information
9) Exit
-----
```

Enter your choice:

- 4 必要に応じて変更し、(例えば、受信者の追加や受信者の削除)、その後オプション9を選択して抜けます。
- 5 変更したら、arcaeend daemon を再起動します。

```
/etc/init.d/arcaeend restart
```

メモ: または、arcaeend を起動 / 停止 / 再起動するために、「service arcaeend start|stop|restart」を実行します。

コマンドラインユーティリティの起動

ARCCONF を起動するには、以下のコマンドのいずれかを入力します。

- Windows—<install_dir>/arccconf.exe
- Linux—/usr/<install_dir>/arccconf
- Solaris—/usr/StorMan/arccconf
- FreeBSD—/<install_dir>/arccconf
- VMware ESX—/usr/StorMan/arccconf
- VMware ESXi—/usr/RemoteArccconf/arccconf

ここで、install_dir はユーティリティがインストールされているディレクトリ名を示します。

利用可能なコマンドのリストを表示するには、プロンプトで ARCCONF と入力します。ユーティリティコマンドの機能については、[コマンドラインユーティリティの使用](#)に詳細があります。

コマンドラインユーティリティの使用

2

この章には ...

ARCCONF コマンド 18

本章では、コマンドラインユーティリティを対話形式やバッチモードで使用方法を説明します。対話モードでは、コマンドをプロンプトに入力します。バッチモードでは、スクリプトを作成し、適切なシェルでスクリプトを実行します。例えば、

環境	バッチファイル	実行スクリプト
Windows	.bat	CMD.EXE
Linux/Unix	.sh	sh / bash

いずれのモードでも、コマンドが失敗した場合は直ちに **Command failed** というエラーメッセージが表示されます。他に表示されるスクリプトメッセージは、**Command completed successfully** または、**Command aborted** です。

それぞれのコマンドの戻り値は同じです。

0x00: SUCCESS

0x01: FAILURE— 要求されたコマンドが失敗しました

0x02: ABORT— パラメータの確認に失敗したためコマンドは中止されました。

0x03: INVALID_ARGUMENTS— 引数が無効です。(COMMAND のヘルプを表示)

利用可能なコマンドは、次のページにアルファベット順に記載されています。コマンドリストにアクセスするには、ARCCONF と入力して、**Enter** を押します。

特定のコマンドのオンラインヘルプにアクセスするには、ARCCONF *<command>* と入力し、**Enter** を押します。

ARCCONF コマンド

以下の機能はコマンドラインから実行します。

ARCCONF コマンド			
atapassword	getsmartstats	resetstatisticscounters	setncq
copyback	getstatus	romupdate	setperform
create	getversion	saveconfig	setpower
datascrub	identify	savesupportarchive	setpriority
delete	imageupdate	setalarm	setstate
driverupdate	key	setcache	setstatsdatacollection
failover	modify	setconfig	setvmcredential
getconfig	playconfig	setmaxcache	task
getlogs	rescan	setname	

メモ: オンラインコマンド構文では、<> は必須パラメータを、[] はオプションのパラメータを示します。

arconf atapassword

SATA ドライブの Secure Erase (完全消去) のパスワードを設定または消去します。Secure Erase の詳細については、37 ページの [arconf setvmcredential](#) を参照してください。

構文

```
ARCCONF ATAPASSWORD <Controller#> SET <new password> <Channel# ID#> ...
ARCCONF ATAPASSWORD <Controller#> CLEAR <current password> <Channel# ID#> ...
```

パラメータ

new password|current password は、大文字小文字を識別するパスワードの文字列です。

Channel/ID は、パスワードを設定またはクリア使用とする各ドライブ上のチャンネル番号とデバイス番号 (ID) の組み合わせをスペースで区切って一覧表示します。

例

```
ARCCONF ATAPASSWORD 1 SET uR8ryx 0 1
ARCCONF ATAPASSWORD 1 CLEAR uR8ryx 0 1
```

arconf copyback

再構築後にドライブをもとのスロット順に保持しようとするコピーバック機能を、有効または無効にします。

構文

```
ARCCONF COPYBACK <Controller#> <ON|OFF>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

On はコピーバック機能を有効にします。

Off はコピーバック機能を無効にします。

例

```
ARCCONF COPYBACK 1 ON
```

arccnf create

新しい論理ドライブや JBOD を作成したり、オプションで、論理ドライブ上のリードキャッシングやライトキャッシングまたは maxCache SSD キャッシングを有効にします。物理デバイスのチャンネルとデバイス ID を指定する必要があります。

冗長論理ドライブでは、ARCCONF が自動同期を実行します。

ARCCONF は、JBOD を論理ドライブではなく物理デバイスとして表示します。

メモ: maxCache ライトキャッシングを有効にするには、Aaptec by PMC サポートの助言が必要です。maxCache ライトキャッシング機能を有効にする方法についてはサービス担当にご連絡ください。

構文

```
ARCCONF CREATE <Controller#> LOGICALDRIVE [Options] <Size> <RAID#> <CHANNEL# DRIVE#> [CHANNEL# DRIVE#] ... [noprompt] [nologs]
```

```
ARCCONF CREATE <Controller#> LOGICALDRIVE RVOLUME <LD#> <LD#> [LD#] ... [noprompt] [nologs]
```

```
ARCCONF CREATE <Controller#> JBOD <CHANNEL# DRIVE#> [CHANNEL# DRIVE#] ... [noprompt] [nologs]
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

Logical Drive は、以下のオプションで、論理ドライブのストライプサイズを示します。

- **Stripesize <STRIPE>**— 論理ドライブに構築するストライプサイズを指定します。ストライプサイズを指定するオプションのパラメータです。STRIPE は、キロバイトで指定します。16、32、64、128、256、512、1024 がサポートされています。初期値は 256KB です。
- **Legs <LEG>**— レッグの数を指定するオプションのパラメータです。値は整数です。
- **LEG**—RAID レベル 50 または 60 のレッグ数です。
 - RAID 50—2 ~ 16 レッグ、3 ~ 32 ドライブ/レッグ、最大 128 ドライブ
 - RAID 60—2 ~ 16 レッグ、4 ~ 16 ドライブ/レッグ、最大 128 ドライブ
- **Name <NAME>**— ユーティリティに表示される論理デバイスのエリアス名を特定するオプションのパラメータです。値は 16 文字までの文字列です。
- **Priority <PRIORITY>**— 作成される論理ドライブの初期化の優先度。有効なオプションは、HIGH、MED、LOW のいずれかです。
- **Method<METHOD>**— 論理ドライブの初期化の方法。有効なオプションには、BUILD、CLEAR、QUICK、SKIP が含まれます。リカバリのみに SKIP (初期化ステップをスキップ) を使用します。
- **Rcache**— 論理ドライブのリードキャッシュモードを設定します。
 - **RON**— リードキャッシュがオン

- ROFF— リードキャッシュがオフ
- Wcache— 論理ドライブのライトキャッシュモードを設定します。
 - WT— ライトスルー無効
 - WB— ライトバック有効
 - WBB—(バッテリーやフラッシュバックアップモジュールで保護されている時) ライトバックが有効
- MaxCacheReadCache—論理ドライブにSSDリードキャッシュモードを設定します。
 - ION—maxCache オン
 - IOFF—maxCache オフ
- MaxCacheWriteCache— 論理ドライブに SSD ライトキャッシュモードを設定します。
 - ION—maxCache オン
 - IOFF—maxCache オフ
- MaxCacheWritePolicy—maxCache ライトキャッシュポリシーを設定します。
 - WB— ライトバック有効。maxCache は SSD にデータを保存し、パフォーマンスに影響のない時にハードディスクにライトバックします。これが初期値のポリシーです。
 - INSTWB— インスタントライトバックが有効。初期値のポリシーに加え、SSD に余裕がありダーティページ数が基準値より少ない場合、maxCache がその場でフルストライプのライト為の「ダーティページ」を作成します。
 - WT— ライトスルー有効。その場でライトバックするのと似ていますが、フルストライプライトはキャッシュとハードディスクの両方に行き、ダーティページはその場では作成されません。

この引数は、MaxCacheWriteCache が ION の場合のみ有効です。

メモ: ライトキャッシュポリシーの詳細については、[32 ページ](#) の `setmaxcache` を参照してください。

Size は、論理ドライブのサイズをメガバイトで示します。MAX を使用してサイズを利用可能なスペースに設定することもできます。

RAID# は、新しい論理ドライブの RAID レベルです。0, 1, 1E, 5, 5EE, 6, 10, 50, 60 及びボリュームがサポートされます。

Channel# Drive# は、論理ドライブに追加する各デバイスのチャンネル番号とデバイス番号の組み合わせをスペースで区切って一覧表示します。

Rvolume は、RAID ボリューム論理ドライブの RAID レベルです。

LD# は、RAID ボリュームに接続された 2 つ以上の論理ドライブの論理ドライブ番号です。

Noprompt は、確認のプロンプトを表示しません。

例

```
ARCCONF CREATE 1 LOGICALDRIVE STRIPESIZE 64 MAX 0 1 0 2 0 3 2 NOPROMPT
ARCCONF CREATE 1 JBOD 0 1 NOPROMPT
```

arccnf datascrub

コントローラのバックグラウンド一貫性チェックをトグル切り替えをします。

構文

```
ARCCONF DATASCUB <Controller#> <on|off|period <DAYS>> [noprompt]
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

On は、バックグラウンド一貫性チェックをオンにします。

Off は、バックグラウンド一貫性チェックをオフにします。

Period <DAYS> がバックグラウンド一貫性チェックを完了する日数を指定します。最小の値が 10 日 (速い) で、最大が 365 日 (遅い) です。期間を自動的に設定すると、バックグラウンド一貫性チェックは自動的にオンになります。

Noprompt は確認を出さないオプションパラメータです。

例

```
ARCCONF DATASCUB 1 PERIOD 30
```

```
ARCCONF DATASCUB 1 OFF
```

arccnf delete

論理ドライブまたは JBOD を削除します。論理ドライブまたは JBOD 上の全データが失われます。スパンドライブは、この機能では削除されません。

構文

```
ARCCONF DELETE <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> <LD#> <LD#> [noprompt]
```

```
ARCCONF DELETE <Controller#> JBOD <CHANNEL# DRIVE#> [CHANNEL# DRIVE#] ...  
[noprompt]
```

```
ARCCONF DELETE <Controller#> LOGICALDRIVE|JBOD ALL [noprompt]
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

LogicalDrive# は、削除される論理ドライブの番号です。

LogicalDrive|JBOD ALL は論理ドライブまたは JBOD 上のすべてのドライブを削除します。

Noprompt は警告メッセージを出さないオプションパラメータです。

例

```
ARCCONF DELETE 1 LOGICALDRIVE 1 2 3
```

```
ARCCONF DELETE 1 JBOD ALL
```

arccnf driverupdate

Windows のデバイスドライバをアップデートします。ディレクトリ名を入力すると、ドライバを与えられたディレクトリ内で見つかったバージョンにアップデートしようとしています。

メモ: このコマンドは、Windows システム内でのみ利用可能です。

構文

```
ARCCNF DRIVERUPDATE <DirName>
```

パラメータ

Driverupdate <DirName> は、アップデートしたいドライバが含まれるディレクトリのパスです。

例

```
ARCCNF DRIVERUPDATE C:\WINDOWSALL
```

arccnf failover

自動フェイルオーバーをオンまたはオフに変更します。

構文

```
ARCCNF FAILOVER <Controller#> <on|off>
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

On は、コントローラのフェールオーバーモードをオンにします。

Off は、コントローラのフェールオーバーモードをオフにします。

例

```
ARCCNF FAILOVER 1 ON
```

arccnf getconfig

コントローラ、論理ドライブ、物理デバイスに関する情報が一覧表示されます。情報には以下の項目を含めることができます (他の項目も可能です)。

- コントローラ タイプ
- BIOS、ブートブロック、デバイス ドライバ、ファームウェア バージョン
- 論理ドライブのステータス、RAID レベル、サイズ
- maxCache ステータス (有効 / 無効)、フェッチおよびフラッシュレートポリシー (low、medium、high)、リード / ライトバランス
- デバイスタイプ、デバイス ID、PEA の有無、SSD ステータス (SSD かそうでないか、maxCache プールの一部か、maxCache プール互換か)
- 物理デバイスの状態

- maxCacheに割り当てられたSSD(ソリッドステートドライブ)の数、maxCacheプールに割り当て可能なSSDの最大数
- エンクロージャ情報、ファン、電源、温度ステータス

構文

```
ARCCONF GETCONFIG <Controller#> [AD|LD [LD#]|PD|AL]
```

パラメータ

Controller#はコントローラ番号です。

AD/LD/PD/AL オプションには、以下のものがあります。

- AD— アダプタ情報のみ
- LD— 論理ドライブ情報のみ
- PD— 物理デバイス情報のみ
- AL— すべての情報(オプション)

例

```
ARCCONF GETCONFIG 1 AD
```

arccnf getlogs

下記を含む、コントローラのステータス、イベントログ、使用統計へのアクセスを提供します。

- DEVICE— コントローラで発生したデバイスエラーのログ
- DEAD— 機能停止したデバイスが発生した記録のログ
- EVENT— 発生した特定のイベントのログ(rebuildやLDM等)
- STATS— コントローラの使用統計のログ

構文

```
ARCCONF GETLOGS <Controller#> <Type> [clear|tabular]
```

パラメータ

Controller#は、コントローラ番号です。

Typeは以下のいずれかです。

- DEVICE
- DEAD
- EVENT
- STATS

Clearは特定のログをクリアします。

メモ: このオプションは、DEVICE、DEAD、EVENT ログタイプでのみ有効です。

Tabularはログまたは統計を表形式で表示します。

例

```
ARCCONF GETLOGS 1 DEVICE
ARCCONF GETLOGS 1 STATS Tabular
```

arccnf getsmartstats

コントローラ上のハードドライブや SSD (ソリッドステートドライブ) の SMAT 統計を表示します。

メモ: SMAR 統計についての詳細は、*Adaptec Storage Manager ユーザズガイド*を参照してください。

構文

```
ARCCONF GETSMARTSTATS <Controller#> [Tabular]
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

Tabular は出力を表形式で生成します。

例

```
ARCCONF GETSMARTSTATS 1
ARCCONF GETSMARTSTATS 1 TABULAR
```

arccnf getstatus

GETSTATUS 機能を使用すると、現在実行中のバックグラウンド コマンドの情報が表示されます。最新の再構築、同期、論理ドライブのマイグレーション、圧縮 / 展開に関する情報が含まれます。この情報には、操作のタイプ、ステータス、論理ドライブ番号、論理ドライブ サイズ、処理の進捗率などが含まれます。

メモ:

- 1 GETSTATUS では、ARCCONF コマンドと Adaptec Storage Manager からのコマンド両方の現在アクティブな操作についてレポートされます。
- 2 GETSTATUS は、物理ドライブ上のベリファイ、クリア、初期化、完全消去の作業についてレポートします。
- 3 GETSTATUS は、アクティブな作業のみをレポートします。作業が完了すると情報を表示しません。

構文

```
ARCCONF GETSTATUS <Controller#>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

例

```
ARCCONF GETSTATUS 1
```

arccnf getversion

BIOS、ドライバ、現在稼働中のファームウェア、再起動後のファームウェアの情報を含む、コントローラまたは、コントローラのソフトウェアコンポーネントのバージョン情報を一覧表示します。

メモ: 再起動後に実行するファームウェアのバージョンは、「ステージ」ファームウェアと呼ばれます。

構文

ARCCNF GETVERSION (すべてのコントローラの情報にこれを使用します)

ARCCNF GETVERSION <Controller#> (特定のコントローラの情報にはこれを使用します。)

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

例

```
ARCCNF GETVERSION
```

arccnf identify

LED を点滅させて、物理または論理デバイスを識別します。

構文

ARCCNF IDENTIFY <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#>

ARCCNF IDENTIFY <Controller#> DEVICE <Channel#> <ID>

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

LogicalDrive# は、識別する論理ドライブの番号です。

Channel# は識別するデバイスのチャンネル番号です。

Device# は識別するデバイスのデバイス番号です。

例

```
ARCCNF IDENTIFY 1 DEVICE 0 0
```

```
ARCCNF IDENTIFY 1 ALL
```

arccnf imageupdate

新しいファームウェアをハードドライブにフラッシュすることを可能にします。

構文

ARCCNF IMAGEUPDATE <Controller#> DEVICE <Channel# ID# ChunkSize# Filename>
[Mode#] [noprompt]

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

Channel# はアップデートするデバイスのチャンネル番号です。

ID# はアップデートするデバイスのデバイス番号です。

ChunkSize# は、ファームウェアをアップデートするのに使用するチャンクのバイトサイズです。

メモ: SATA ドライブでは、チャンクサイズは、512 の倍数である必要があります。

Filename は、ファームウェアアップデートファイルの名前です。

Mode# は、ファームウェアアップデートモードです。有効な値は、

- 3-(SATA) 差分付きのダウンロードで、イメージを今及び将来の使用のために保存
- 7-(SAS) 差分付きマイクロコードのダウンロード、保存、有効化

Noprompt は警告メッセージを出さないオプションパラメータです。

例

```
ARCCONF IMAGEUPDATE 1 DEVICE 0 83 16384 ados.lod 3
```

arccnf key

アダプテックコントローラ上に機能キーをロードします。

構文

```
ARCCONF KEY <Controller#> SET <Key#>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

Key# がアダプテックが提供するキー番号です。

例

```
ARCCONF KEY 1 SET ABCD EFGH IJKL MNOP QRST UVWX
```

arccnf modify

論理デバイスがある RAID レベルから別のレベルに変化します (RAID レベルマイグレーション)。論理デバイスが元の容量から大きな容量に拡張します。(オンライン容量拡張) ミラーのセットを作るのにも使用できます。

構文

```
MODIFY <Controller#> FROM <LogicalDrive#>  
TO [Options] <Size> <RAID#> <CHANNEL# DRIVE#> [CHANNEL# DRIVE#] [noprompt]
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

FROM は、変更が始まる論理ドライブ

LogicalDrive# は論理ドライブ番号、

TO は変更先を指します。

オプション:

- ストライプサイズ— ストライプサイズを KB で表示します。オプションは、32、64、128、256、512、1024 で、初期値は 256KB です。
- `init_priority`— 変更のプライオリティレベルです。オプションは、`low`、`med`、`high` です。
- `Legs`— は、RAID レベル 50 または RAID レベル 60 のアレイのサブアレイの数です。可能な値は、2-16 `legs`、3-16 `drives/leg` (最大で 48 ドライブ) です。

`size` には以下のいずれかの値を指定します。

- `MAX` は利用可能なディスク上のすべての空き容量を使用します。
- 任意のサイズ (MB)。

`RAID#` は、論理ドライブの RAID レベル (0、1、5、5EE、10) です。

メモ: `CHANNEL#` と `ID#` パラメータは、ターゲットの変更先を含むデバイスのリストです。`Channel` と `Device_ID` は、繰り返し可能なパラメータです。

`Channel#` はデバイスのチャンネル番号です。

`Drive##` はデバイスの `device_ID` (デバイス番号) です。

`NOPROMPT` はユーザプロンプトを無効にするオプションのパラメータです。

例

```
ARCCONF MODIFY 1 FROM 2 TO 2048 0 0 123 0 124 0 117
```

arccnf playconfig

`SAVEOCONFIG` コマンド (29 ページ参照) で作成した、XML サーバートEMPLATE ファイルを使用して、コントローラを設定します。このコマンドを使用して、同じコントローラ設定をストレージスペース内の複数のサーバに適用します。

メモ:

- 1 XML サーバートEMPLATE ファイル (初期値で、`saveconfig.xml`) は編集可能です。例えば、ディスクドライブの容量、論理ドライブのサイズ、RAID レベルを変更する必要があるかもしれません。
- 2 同じ製造元のドライブで、わずかに容量の異なる (例えば 147GB か 150GB など) ドライブは、相互交換可能です。交換により論理ドライブ容量が変化した場合、ドライブは必要によって比例します。例えば、新しいドライブが 4 大きな容量をもっている場合、全ての論理ドライブで 4% サイズが増加します。
- 3 ログファイルをチェックして、コントローラが正しく設定されたか確認します。終了のコードは、以下に示す様に、操作が成功したか失敗したか、システムの再起動が必要かを表示します。 .

コード	値	意味
<code>SUCCESS</code>	0	設定は成功し、リブートは不要です。
<code>FAILURE_GENERAL</code>	1	エラーが発生し、設定は完了できませんでした。
<code>SUCCESS_REBOOT</code>	2	設定は成功しましたが、リブートが必要です。

構文

```
ARCCONF PLAYCONFIG <Input XML File> [LogFile] [FORCE ALL|LOGICALSIZE]
```

パラメータ

Input XML File はサーバテンプレートファイルのパス名です。初期値のサーバテンプレートファイルは、C:\PMCS\Log\saveconfig.xml にあります。

LogFile は、エラーログファイルのパス名です。初期値のエラーログは、C:\PMCS\Log\playconfig.log にあります。

FORCE は、コントローラがすべての機能に対応していなかったり、ドライブの容量が input XML file 中の設定と一致しなくとも、強制的に適用します。FORCE ALL 使用すると全ての機能に強制適用を行い、FORCE LOGICALSIZE は、論理ドライブのサイズのみを強制適用します。

例

```
ARCCONF PLAYCONFIG server1_config.xml playconfig.log FORCE ALL
```

arccnf rescan

コントローラで、Ready 状態のディスク ドライブの取り出しと新しいディスク ドライブのコントローラへの接続をチェックします。再スキャンを完了すると、コマンドが返ります。

構文

```
ARCCONF RESCAN <Controller#>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

例

```
ARCCONF RESCAN 1
```

arccnf resetstatisticscounters

コントローラの統計カウンターをリセットします。このコマンドを使用して、カウンターをクリアし、新しい統計を作成します。

構文

```
ARCCONF RESETSTATISTICSCOUNTERS <Controller#>
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

例

```
ARCCONF RESETSTATISTICSCOUNTERS 1
```

arccnf romupdate

新しいファームウェアと BIOS をコントローラにフラッシュすることができます。新しいファームウェアを有効にするには、再起動が必要となります。

メモ:

- 1 この機能は、Windows と Linux でのみサポートされます。
- 2 BIOS/Firmware アップデートディスクレットではなく、DVD から *.UFI のアップデートファイルをコピーしたかを確認してください。

構文

```
ARCCONF ROMUPDATE <Controller#> <BaseName> [Newversion <build#> [Force]]
[noprompt]
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

BaseName は、ROM イメージのベースネームか、コントローラ ROM イメージ一式を持っている場合フルパス名です。

メモ: すべての UFI ファイルは、ARCCONF を実行する前に同じディレクトリにある必要があります。フロッピーイメージから UFI ファイルをコピーする場合、すべてのイメージをチェックしてください。

Newversion <build#> は、作成するファームウェアのバージョンです。

Force は、オプションのパラメータで、下位レベルのファームウェアアップデートを強制する時に使用します。

Noprompt は確認を出さないオプションパラメータです。

例

```
ARCCONF ROMUPDATE 1 AC2200
ARCCONF ROMUPDATE 1 AC220001.UFI
ARCCONF ROMUPDATE 1 AS483C newversion 12345 force noprompt
```

arccnf saveconfig

コントローラタイプ、運用設定、物理ドライブサイズ、論理ドライブサイズ、RAID レベル他の、コントローラの設定を XML サーバテンプレートファイルに保存します。PLAYCONFIG コマンドを使用し、同じコントローラ設定をストレージスペース内の別のサーバに適用します。詳細は、[27 ページ](#) を参照してください。

メモ: ログファイルをチェックして、コントローラ XML ファイルが正しく作成されたか確認します。終了コードは、以下の様に操作が成功したか失敗したかを示します。.

コード	値	意味
SUCCESS	0	設定 XML は問題なく作成されました。
FAILURE_GENERAL	1	エラーが発生し、設定 XML は作成できませんでした。

構文

```
ARCCONF SAVECONFIG [Input XML File] [LogFile]
```

パラメータ

Input XML File はサーバテンプレートファイルのパス名です。初期値のファイル名は (このパラメータを省略した場合)、C:\PMCS\Logs\saveconfig.xml になります。

LogFile は、エラーログファイルのパス名です。初期値のエラーログは、C:\PMCS\Logs\saveconfig.log にあります。

例

```
ARCCONF SAVECONFIG server1_config.xml C:\LOGS\SERVER1.LOG
```

arccnf savesupportarchive

Adaptec カスタマサポートがお使いのシステムの問題を診断するのに役立つ構成とステータス情報を保存します。保存される情報に含まれるのは (限定されませんが)、デバイスログ、ドライブログ、イベントログ、エラーログ、コントローラログ、SSD SMART 統計情報です。(SMART の詳細については、[24 ページの arccnf getsmartstats](#) を参照してください。)

ログファイルは、お使いのオペレーティングシステムの標準ログディレクトリ (Linux では、/var/log、Windows では ASM のインストールディレクトリ等)、内の Support フォルダに保存されます。

メモ : Adaptec Storage Manager の Save Support Archive 機能とは異なり、このコマンドは、Zip (「Archive」) ファイルを作成しません。単に、Support フォルダ内にサポートファイルとログを保存するだけです。

構文

```
ARCCONF SAVESUPPORTARCHIVE
```

パラメータ

なし

例

```
ARCCONF SAVESUPPORTARCHIVE
```

arccnf setalarm

コントローラに音声アラームがある場合に、そのコントローラの音声アラームの状態を設定します。

構文

```
ARCCONF SETALARM <Controller#> <on|off|silence|test>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

On はアラームを有効にします。

Off はアラームを無効にします。

Silence は、現在なっている音声アラームを停止します。

Test はアラームを開始します。

例

```
ARCCONF SETALARM 1 TEST
ARCCONF SETALARM 1 SILENCE
```

arccnf setcache

論理ドライブのキャッシュモードを変更します。

構文

```
ARCCONF SETCACHE <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> <logical mode>
[noprompt] [nologs]
ARCCONF SETCACHE <Controller#> DEVICE <Channel> <ID> <physical mode> [nologs]
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

LogicalDrive# は、キャッシュを変更する論理ドライブの番号です。

論理ドライブのキャッシュモードは:

- RON— リードキャッシュがオン
- ROFF— リードキャッシュがオフ
- WT— ライトスルー無効
- WB— ライトバック有効
- WBB—(バッテリやフラッシュバックアップモジュールで保護されている時)ライトバックが有効

Channel/ID は、論理ドライブに追加する各デバイスのチャンネル番号とデバイス番号の組み合わせをスペースで区切って一覧表示します。

物理ドライブのキャッシュモードは:

- WT— ライトスルー無効
- WB— ライトバック有効

例

```
ARCCONF SETCACHE LOGICALDRIVE 1 RON
ARCCONF SETCACHE DEVICE 0 0 WB
```

arccnf setconfig

コントローラの設定をリセットします。論理ドライブが削除され、ハードディスクはレディ状態にリセットされ、コントローラの全ての設定がデフォルトになります。

構文

```
ARCCONF SETCONFIG <Controller#> DEFAULT [noprompt]
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

Default はコントローラの初期設定を復元します。

Noprompt は、確認のプロンプトを表示しません。

例

```
ARCCONF SETCONFIG 1 DEFAULT
```

arconf setmaxcache

1 つ以上の論理ドライブで、maxCache SSD キャッシングを有効または無効にし、maxCache ライトキャッシュポリシーと「ダーティページ」基準値（ディスクにコミットしないデータ）をアップデートし、SSD を maxCache プールに追加し、プールから SSD を削除し、maxCache リード/ライトバランスやフェッチ/フラッシュレートを設定し、maxCache プールをクリアします。

メモ: 初 maxCache ライトキャッシングを有効にするには、Aptec by PMC サポートの助言が必要です。maxCache ライトキャッシング機能を有効にする方法についてはサービス担当にご連絡ください。

メモ: maxCache SSD を有効にする前に、少なくとも SSD を 1 台、maxCache プールに割り当てる必要があります。

構文

リードキャッシング:

```
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> READCACHE  
ENABLE|DISABLE
```

ライトキャッシング:

```
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> WRITECACHE  
ENABLE|DISABLE [WRITEPOLICY <policy>]  
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> WRITEPOLICY  
<policy>  
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> DIRTYPAGETHRESHOLD <dirtyPageThreshold#>
```

全般:

```
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> ADDTOPOOL|REMOVEFROMPOOL <Channel# Device#>  
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> RWBALANCE <Read#> <Write#>  
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> FLUSHANDFETCHRATE <FlushAndFetchRate#>  
ARCCONF SETMAXCACHE <Controller#> CLEAR
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

LogicalDrive# は論理ドライブの番号です。1 つ以上の論理ドライブを設定可能です。

Channel# は SSD のチャンネル番号です。

device # は SSD のデバイス番号です。

Read#/Write# は、SSD 上でデータを無効にするリード/ライトのレートです。レートに達すると、ページがキャッシュから削除されます。値の範囲は、各パラメータ毎に 1 ~ 10 です。

FlushAndFetchRate# は 1 から 1000 のリードキャッシュフェッチレートです: 1-50=Low, 51-100=Medium, 101-1000=High. 初期値は 100 です。

メモ: レートが低いほど長いページがキャッシュがフラッシュされる前に SSD に保存されます。

dirtyPageThreshold# は、「ダーティ」データ、つまりディスクにコミットされないデータに割り当てられたキャッシュスペースの量を管理します。基準値の値は 1-100 (パーセント) です。ダーティページのパーセンテージが基準値を超すと、データはディスクに転送されます。

ポリシーは、maxCache ライトキャッシュポリシーです。

- WB— ライトバック有効。maxCache は SSD にデータを保存し、パフォーマンスに影響のない時にハードディスクにライトバックします。これが初期値のポリシーです。
- INSTWB— インスタントライトバックが有効。初期値のポリシーに加え、SSD に余裕がありダーティページ数が基準値より少ない場合、maxCache がその場でフルストライプのために「ダーティページ」を作成します。
- WT— ライトスルー有効。その場でライトバックするのと似ていますが、フルストライプライトはキャッシュとハードディスクの両方に行き、ダーティページはその場では作成されません。

Clear は、maxCache プールをクリアします。

例

```
ARCCONF SETMAXCACHE 1 LOGICALDRIVE 1 READCACHE ENABLE
ARCCONF SETMAXCACHE 1 LOGICALDRIVE 1 WRITECACHE ENABLE WRITEPOLICY WT
ARCCONF SETMAXCACHE 1 DIRTYPAGETHRESHOLD 50
ARCCONF SETMAXCACHE 1 ADDTOPOOL 0 1
ARCCONF SETMAXCACHE 1 REMOVEFROMPOOL 0 1 0 2
ARCCONF SETMAXCACHE 1 RWBALANCE 4 1
ARCCONF SETMAXCACHE 1 FLUSHANDFETCHRATE 200
ARCCONF SETMAXCACHE 1 CLEAR
```

arccnf setname

論理ドライブの名前を変更します。

構文

```
ARCCONF SETNAME <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> <New Name>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

LogicalDrive# は、名前を変更する論理ドライブの番号です。

New Name は論理ドライブの新しい名前です。

例

```
ARCCONF SETNAME 1 LOGICALDRIVE 1 BACKUP_A
```

arccnf setncq

コントローラの NCQ ネイティブコマンドキューイングを有効または無効に変更します。この設定は、コントローラ上の SATA ディスクドライブに影響します。SATA ドライブが再起動したときに有効になります。

構文

```
ARCCONF SETNCQ <Controller#> ENABLE|DISABLE
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

例

```
ARCCONF SETNCQ 1 ENABLE
```

arccnf setperform

アプリケーションのタイプによってコントローラの設定を変更します。

構文

```
ARCCONF SETPERFORM <Controller#> <Performance Mode> [nologs]
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

Performance Mode は、1(DYNAMIC / 初期値)、2 (OLTP/Database)、3 (Big Block Bypass) です。

- Dynamic に設定すると、パフォーマンス基準が自動的にコントローラの使用頻度、RAID レベル、ディスクドライブタイプに基づいて調整されます。
- OLTP/Database に設定すると、パフォーマンス基準は、データエントリや復旧などのトランザクション指向アプリケーション用に最適化されます。
- Big Block Bypass に設定すると、DRAM ライトキャッシュが IO ライトサイズによってバイパスされ、パフォーマンスがウェブページやデータ取り出し用に最適化されます。

例

```
ARCCONF SETPERFORM 1 2
```

```
ARCCONF SETPERFORM 1 3
```

arccnf setpower

コントローラや論理ドライブ上のディスクドライブのパワーマネジメント設定を変更します。

構文

```
ARCCONF SETPOWER <Controller#> Stayawake DISABLE|<starttime> <endtime>
```

```
ARCCONF SETPOWER <Controller#> Spinup <internal#> <external#>
```

```
ARCCONF SETPOWER <Controller#> LD <LogicalDrive#> DISABLE|[SLOWDOWN <st#>]  
[POWEROFF <pt#>] [VERIFY <vt#>]
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

Stayawake は、コントローラ上のディスクドライブのステイアウェイク期間を設定します。ステイアウェイク期間内は、ディスクドライブは常に最高のスピンドレイトで動作します。

Disable は、コントローラ上のディスクドライブのステイアウェイク期間を無効にするキーワードです。

starttime は、ステイアウェイク期間の開始を、HHMM (24 時間形式) で指定します。

endtime は、ステイアウェイク期間の終了を、HHMM (24 時間形式) で指定します。

Spinup は、コントローラのスピニアップの制限 — コントローラが同時にスピニアップ可する最大の数を設定することも可能です。

internal# は、コントローラが一度にスピニアップする内部ドライブの最大数で、0-20 です。

external# は、コントローラが一度にスピニアップする外部ドライブ (JBOD 内のドライブのような) の最大数で、0-20 です。

LogicalDrive# は論理ドライブ番号です。

Slowdown st# はディスクドライブのスローダウンタイマーを分で設定します。有効な値は、0 (しない)、3, 5, 10, 20, 30, 60, 120, 180 です。

Poweroff pt# はディスクドライブのパワーオフタイマーを分で設定します。有効な値は、0 (しない)、3, 5, 10, 20, 30, 60, 120, 180 です。

Verify vt# は、非アクティブ期間を時間で設定し、その後非アクティブドライブ (既にパワーダウンしたドライブ) が動作したかを確認するために再起動します。チェックが完了すると、ドライブの電源が落ち、非アクティブ状態に戻ります。有効な値は、0 (しない)、1, 2, 3, 8, 12, 24 です。

メモ: スローダウン、パワーオフ、ベリファイタイマーでは、st# は pt# より少なく、pt# は vt# より少ない必要があります。1 つまたは複数のタイマーを、好きな順番で、一つのコマンドで設定することができます。ベリファイタイマー、vt# は、時間で指定しているのに対し、他の二つのタイマーは分で指定していることに注意してください。

例

```
ARCCONF SETPOWER 1 STAYAWAKE DISABLE
ARCCONF SETPOWER 1 SPINUP 4 4
ARCCONF SETPOWER 1 LD 2 POWEROFF 60
ARCCONF SETPOWER 1 LD 2 SLOWDOWN 20 POWEROFF 60 VERIFY 12
```

arccnf setpriority

タスクの実行プライオリティまたは、コントローラのグローバルバックグラウンドタスクの優先度を変更します。

構文

```
ARCCONF SETPRIORITY <Controller#> [TASK ID] <New Priority> [current]
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

Task ID は、変更するタスクの番号です。タスク ID を入手するには、`arconf getstatus` を使用します。コントローラのグローバルバックグラウンドタスクプライオリティ、つまりコントローラ上のすべてのタスクの実行プライオリティを設定するときはこのパラメータを省略します。

New Priority は、LOW、MEDIUM、HIGH です。

Current (キーワード) は、グローバルタスクプライオリティを実行しているタスクに適用します。初期値では、グローバルプライオリティ変更は、実行中のタスクには適用されません。

例

```
ARCCONF SETPRIORITY 1 <task_id> HIGH
ARCCONF SETPRIORITY 1 LOW CURRENT
```

arconf setstate

物理デバイスや論理デバイスの状態を、現在の状態から目的の状態に変更します。

構文

```
ARCCONF SETSTATE <Controller#> DEVICE <Channel#> <Device#> <State> [LOGICALDRIVE
<LD#>[LD#] ... ] [noprompt]
ARCCONF SETSTATE <Controller#> LOGICALDRIVE <LD#> OPTIMAL [ADVANCED <option>]
[noprompt]
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

Channel# はドライブのチャンネル番号です。

Device# は、デバイスのデバイス番号です。

LD# は論理ドライブ番号です。

State は、

- HSP— レディドライブからホットスペア作成
- RDY— ホットスペアの指定を削除
- DDD— ドライブを強制オフライン (故障) に

ADVANCED <option> はオプションのキーワード / オプションの組み合わせです。オプションを Nocheck に設定して、整合性チェックを実行せずに、論理ドライブを Optimal (正常) の状態にします。

Noprompt は、確認のプロンプトを表示しません。

例

```
ARCCONF SETSTATE 1 DEVICE 0 0 HSP LOGICALDRIVE 1 2 3
ARCCONF SETSTATE 1 DEVICE 0 0 RDY LOGICALDRIVE 2
ARCCONF SETSTATE 1 LOGICALDRIVE 1 OPTIMAL ADVANCED nocheck
```

arconf setstatsdatacollection

コントローラの統計情報収集を有効または無効にします。統計を表示するには、[arconf getlogs](#) コマンドを使用します。(23 ページ参照)

構文

```
ARCCONF SETSTATSDATACOLLECTION <Controller#> Enable|Disable
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

Enable は統計情報収集をオンに変更します。

Disable は統計情報収集をオフにします。

例

```
ARCCONF SETSTATSDATACOLLECTION 1 ENABLE
```

arconf setvmcredential

リモート ARCCONF が稼働している VMware ゲスト OS のハイパーバイザログイン認証をリセットします。

メモ: このコマンドは、リモート ARCCONF の稼働している VMware ゲスト OS のみで利用可能です。

構文

```
SETVMCREDENTIAL <Esxip> <Esxcimomport> <Esxuserid> <Esxpassword> [noprompt]
```

パラメータ

Esxip はハイパーバイザ IP アドレスです。

Esxcimomport は、ハイパーバイザ CiMOM ポート番号です。

Esxuserid はハイパーバイザ ユーザ名です。

Esxpassword はハイパーバイザパスワードです。

例

```
ARCCONF SETVMCREDENTIAL 172.18.46.101 5989 root passwd
```

arconf task

論理ドライブまたは物理ドライブのタスクを実行します。

構文

```
ARCCONF TASK
TASK START <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> <options> [noprompt]
TASK STOP <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#>
TASK START <Controller#> DEVICE <Channel> <ID> <options> [noprompt]
TASK STOP <Controller#> DEVICE <Channel> <ID>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

LogicalDrive# は、タスクを実行する論理ドライブの番号です。

- 論理ドライブのオプション：
 - `verify_fix` (Verify with Fix)— 論理ドライブの冗長性をチェックし、バッドデータが見つかったときには修復します。
 - `verify`— バッドデータの修正せずに、論理ドライブの冗長性をチェックします。
 - `cleara`— ドライブ上のすべてのデータを削除します。
- Physical device オプション：
 - `verify_fix`— ディスクメディアをチェックし、バッドデータが見つかったときは修復します。
 - `verify`— バッドデータの修復をせずにディスクメディアをチェックします。
 - `cleara`— ドライブ上のすべてのデータを削除します。
 - `initialize`— ドライブをレディ状態に戻します。(メタデータを削除します)
 - `secureerase [password]`— 削除されたデータのあらゆる復旧を不可能にする安全な方法でドライブからすべてのデータを削除します。パスワードの設定に関するの詳細については、[18 ページの `arconfatapassword`](#) を参照してください。

例

```
ARCCONF TASK START 1 LOGICALDRIVE 1 VERIFY
```

```
ARCCONF TASK START 1 DEVICE 0 0 INITIALIZE
```



PMC-Sierra, Inc.
1380 Bordeaux Drive
Sunnyvale, CA 94089 USA

© Copyright PMC-Sierra, Inc. 2011
All rights reserved. Adaptec and the Adaptec by PMC logo
are trademarks of PMC-Sierra, Inc.

Part Number: CDP-00269-01JA-A Rev A